



のと復興応援

マグカップ

プレミアムギフトバコ



のと復興応援 マグカップ



能登の里山里海をテーマとした、やさしくも奥の深い表情のマグカップ。ふだんの活動拠点は岐阜ながらも、七尾の中島町に縁があり、中島町で一棟貸しの宿を営む陶芸作家夫婦が、「遠くからでも支援できる」の一心で制作し、売上の一部を能登復興支援金に充てています。地域住民が作った「能登なかじまローカルマップ」と共にお届けします。

※「のと復興応援マグカップ」シリーズは全工程が手作業のため釉薬の配分やまだらの加減など個体差があります。ご了承ください。



商品番号 | 6721

のと復興応援マグカップ 能登さくら

「必ず春が来る、桜が咲く」と復興への祈りとエールをこめた桜色のカラーリング。『Cafe AROMA美』（七尾市中島町）とのコラボカップでもあります。

マグカップ1個/能登なかじまLOCAL MAP付
サイズ/口径約75mm×高さ約85mm



商品番号 | 6722

のと復興応援マグカップ 能登こしひかり

里山里海に加えて、水がきれいな七尾市中島町。肥沃な土で育てられるおいしい米をイメージしました。能登の田園風景を想いつつ、日々のおともに。

マグカップ1個/能登なかじまLOCAL MAP付
サイズ/口径約75mm×高さ約85mm



商品番号 | 6723

のと復興応援マグカップ 能登海ブルー

おだやかな海とのどかな田園が織りなす内浦の景色。それらの色にじんこ調和するカラーリングから、能登の内浦へ思いを馳せつつ憩いの時間を。

マグカップ1個/能登なかじまLOCAL MAP付
サイズ/口径約75mm×高さ約85mm



商品番号 | 6724

のと復興応援マグカップ 能登波ブルー

失うだけでは未来を描けない、その中でも得るものを見つけた。能登の波だって荒波ばかりじゃない、海の恵みもある。寄せる波に希望を託して。

マグカップ1個/能登なかじまLOCAL MAP付
サイズ/口径約75mm×高さ約85mm

What's

ー 復興応援マグカップとは ー



1. デザインテーマは能登の里山里海
2. 売上の一部を能登へ寄付
3. 能登に実在、経営する店舗とコラボする場合、店舗使用を想定してロゴデザインや色を柔軟に対応

上記3つを基準に制作しているのが「のと復興応援マグカップ」です。
※2024年現在は七尾市中島町で実施中
※これらは『ツチノネ工房』が独自に掲げているものです



工芸にふれて泊まれるギャラリーのような一棟貸し切り宿『tonot』

のと鉄道『西岸駅』から車で約4分、徒歩なら約15分ほど。のどかな集落のはじっこに、アートと泊まる一棟貸しの宿『tonot』があります。1日1組限定のため、地域の暮らしに溶け込むような宿泊ができ、お部屋の窓からのと鉄道の列車も眺められます。七尾のフレンチ『ひのともり』のシェフによる出張シェフプランも人気です。

アートと泊まる一棟貸しの宿 tonot
石川県七尾市中島町小牧4106 TEL. 0572-44-7050 [Instagram]@tonot_omaki

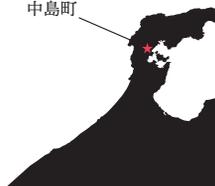


のと鉄道の各駅にも桜が植えられていますが、中でも「能登さくら駅」の愛称をもつ『能登鹿島駅』の桜は見事!



能登なかじまLOCAL MAP。中島町を周遊したくなる魅力と遊び心満載です

七尾市
中島町



東濃を拠点としながらも 七尾で宿を経営する理由

店名の『tonot(トノット)』は、岐阜の東濃(tono)と石川の能登(noto)から作った造語。「東濃と能登、遠く離れていても人も心も結び合える」というオーナー夫妻の思いが込められています。

どうして東濃なのか?それは、ふたりが営む『ツチノネ工房』が、美濃東部(岐阜県南東部)にあるから。美濃焼の産地として知られる東濃で、夫のアサ佳さんは鋳込み成形を、妻の木谷恵美さんはロクロ成形をメインにユニット活動をしています。

能登の中島町に『tonot』を構えることになったのは、木谷さんの故・祖父母が暮らしていた築70年超の古民家の中島町にあると知ったことがきっかけ。



上/多彩な酒器が約50種並ぶ棚。作家のアートや工芸作品でありながら、使用は自由というぜいたくさ。

中/陶芸作家であるオーナー夫妻。室内には食器や花瓶、タイル画などさまざまなアートが随所に配されています。

下/木々に囲まれた『tonot』は、のと鉄道沿線に建っています。緑側や窓から列車を眺める楽しみも。



アサ佳さん

1985年埼玉県生まれ。陶芸作家、岐阜県商品開発研究所(GPDL)のセラミックディレクター。妻・木谷恵美と『ツチノネ工房』とユニット活動し、2023年より『tonot』を経営。



木谷恵美さん

1984年石川県生まれ。自動車内装メーカーでシートデザインに携わったのち、陶磁器作家へ転身。夫・アサ佳と『ツチノネ工房』とユニット活動し、2023年より『tonot』を経営。

訪れた際、能登の里山里海に強く心惹かれ、「この場所で地域の魅力を伝えられる何かをしたい」と決意したそうです。

「中島地区は能登かきの産地としても知られますが、杵旗が見事なお熊甲祭りがあり、能登演劇堂もあって歴史文化やアートへの造詣も深いまち。魅力ある地域なのに宿が少なく、せっかく訪れたなら、ゆっくり過ごせる場所もあるといいなと」

のと鉄道の列車も見える土地だから窓は大きく、陶芸家が直営する宿だからアート作品に囲まれた空間にと夫婦で構想を描き、2022年秋に着工。翌年の春に『tonot』がオープンしました。

中島町の美しい風景や文化を この先もと願った矢先の災害

岐阜を拠点としながらも、自分たちで宿の管理をと、頻繁に能登へと訪れていた夫婦。9月20日に行われるお熊甲祭りでは杵旗の担ぎ手としてアサ佳さんが初参加し、クリスマスには木谷さんが宿にツリーを飾り、地区内のお店で地域の人たちと家族ぐるみで交流するなど、能登での暮らしも積極的に関わってきました。

「お祭りを裏で支える地域の方々の姿や、文化を大切に継承している光景が素敵で、少しでも関わることが嬉しくて。年末は『tonot』の掃除をし、大晦日は妻の実家がある金沢に滞在して、来年はこんなことしたいねと話していたんですが……」

その抱負も、2024年元旦早々に崩れてしまいました——能登半島地震です。

小さな範囲での取り組み一つひとつが集まり
能登全体への「光」につながると信じています



「道が酷くて被災確認ができたのは、5日後でした。作品が割れ、クロスが破れ、瓦が落ちて。それでも、うちの被災は幸いにも軽微でした。ただ、あんなに魅力ある地域が変わり果てたことが辛くて、現実としてなかなか受けとめられませんでした」

せめて『tonot』が支援活動者たちの拠点になることで支援できれば。その思いで必死に片付け、断水が解消するまでは簡易トイレを設置して宿を貸し出し、また、知り合いの焼物作家たちに器の寄付を呼び掛けたふたり。ただただ必死だったと振り返ります。



東濃を拠点としながらも 七尾で宿を経営する理由

宿のオーナーとしてできることはした。では、作家である自分たちができることは?

視点を変えて考えた時に、「遠くからでも、器を作ることで支援ができる」と気づいたのだそう。美濃焼は量産品から一点ものまで多彩な技術のある地域。その特徴を活かし、能登の里山里海をテーマとしたマグカップをつくり、飲食店に寄贈し

たり、マグカップの売上の半分を地域に寄付することを思い立ったと話します。

第1弾は、のと鉄道・能登中島駅近くにある『Cafe AROMA美』のイメージカラーであるピンクとライトグリーンの配色で制作。『ツチノネ工房』でコツコツ手作りし、そのマグカップは必要分を店舗へ寄贈。

「地震で割れたものもあるので助かりました。なかなか客足が戻らず、営業を継続できるのかと悩む中で、このマグカップが心の励みにもなっているんです」

と『Cafe AROMA美』店主の言葉を受け、少しずつでも能登の応援につながっていると感じた夫妻。復興応援マグカップの販売を中島町のお店に協力してもらって販路を拡大し、第2弾、第3弾と制作しています。

すべては、地域の暮らしが復興し、再びみんなの笑顔に会うために。



地元のグラフィックデザイナー・葛西晴子さんのイラストと「GO TO NOTO」などの文言がプリントされたマグカップ裏面